

いろは新聞



令和4年12月発行 第47号
発行元：福生市立中央図書館
臨時窓口

福生市牛浜163番地
(さくら会館内)
TEL：042-553-3111

福生市立図書館
ヤングアダルトページ



<https://www.lib.fussa.tokyo.jp/young/>

図書館からおすすめ！
この本、読んでみませんか？



「沖縄美ら海水族館はなぜ

役に立たない研究をするのか？」

佐藤 圭一・富田 武照・松本 瑠偉 / 著
産業編集センター / 刊 (二〇二二年)

その水槽の前に立つと、まるで自分が海の底にいるかのように感じます。優雅に泳ぐマンタや銀色のイワシの群れ、飛行船のようにゆっくと、しかし力強く横切るジンベエザメ。色も大きさもさまざまな生き物たちが、思うままにぐらぐらしています。

沖縄美ら海水族館といえば、観光業がさかんな沖縄でも一、二を争う有名な観光スポットです。しかし、そのほかにも沖縄美ら海水族館を代表する大きな特徴があることを、皆さんはご存じでしょうか？

この本は、沖縄美ら海水族館の知られざる活動をひも

とき、生き物たちの楽園をより楽しむための知識が詰まった、とつても“フカイ”本なのです。

さて、沖縄美ら海水族館のもう一つの特徴とは、いったい何でしょう。

沖縄美ら海水族館に限らず、水族館や動物園は自然環境の保全や生き物の保護、環境教育などのために、さまざまな研究に取り組む「研究機関」としての役割があります。その中でも沖縄美ら海水族館は、「海洋生物の研究機関」として有名です。その実力たるや、日本国内のみならず世界中からも注目されるほど。世界でもトップクラスの研究機関なのです。

そんな沖縄美ら海水族館では、個性ゆたかなサメ博士たちがメガマウスザメの標本の口にありつたけの水風船を突っ込んだり、魚がどれだけ目をひっこめられるか特殊な装置で調べたりといった研究に大忙し。一見すると確かに役に立たなさそうですが、こういった地道な研究があとから重要になったりすることもあるのです。

海や水族館が好きな人はもちろん、進学や就職について考えている人にもおススメです。専門的な内容ですが、冬休みにチャレンジしてみませんか？

福生第一中学校発！

中学生がおススメする本



今回は福生第一中学校の生徒さんがおススメの本を紹介してくれました！どれも面白い本なので、図書館で借りて読んでみてください！

ペンネーム 渡邊さん
からのおすすめ！



『探偵ガリレオ』

東野 圭吾 / 著 文藝春秋 / 刊
(二〇〇二年)

『頭だけ燃えた男』『心臓だけ腐った死体』『池に浮んだデスマスク』『幽体離脱した少年』

あなたはこの言葉を聞いて、どうやって殺されたか、どんな真相があるか想像や推理ができますか？

この本は、そんな摩訶不思議な殺人事件を天才教授“湯川学”が科学を使って解決する話の第一作目です。犯人は学校でも習う科学を少しアレンジをして殺人を犯します。

「でも、使う科学って高校生や大学生が習う難しいものばかりなのでは？本当に理解しながら読めるの？」と思った人はいるのではないのでしょうか。そんなことはありません。

この本に出てくる科学は、小学校で習う基礎的なものばかりです。実際、化学が苦手な私でも理解しながら楽しく読むことが出来ました。また、登場人物は個性的な人ばかりです。

その上、人物が少ないので、小説を読んでいるとよくある「あれ？この人って何の人だっけ？」となり、前のページを読み返す。ということがとても少ないです。そのため、没頭して読んでしまいます。

知っている人も居るかもしれませんが、この本のシリーズはドラマ化、映画化もされ今年、「沈黙のパレード」という矛盾した題名の映画が上映され、話題になりました。

「ドラマ見たことあるしいや。」という人もぜひ読んでみてください。

会話一文にまで張り巡らされた伏線、想像することが出来る情景描写。ドラマとはまた違う「探偵ガリレオ」を是非読んでみてください。

そして、読んだあなたはきっと言うでしょう。
「実に面白い。」

